



## 「一般社団法人 日本子ども学会」になりました。

2025年9月、日本子ども学会は一般社団法人になりました。この学会の発足は2003年、第1回子ども学会議の開催が2004年ですので、20余年の歴史が紡がれているにもかかわらず、今までは任意団体でした。この学会に確固とした社会的地位を与えるため、これを法人化する時が来た、いわば子ども期、青年期を経て、いよいよ成人として立ち上がる時が来たのです。そのために定款も定め、理事会などの運営組織も見直しを図り、新たな形に生まれ変わることになりました。このことにより、会員の皆様に新たな負担や不都合が生ずることはありません。むしろこれを機に、学会活動をより活発に進めていきたいと強く思っています。よろしくお願いいたします。

(代表理事 安藤寿康)

### 【一般社団法人日本子ども学会 定款（一部）】

#### 第1章 総則

##### (名称)

1 当法人は、一般社団法人日本子ども学会と称し、英文では、The Japanese Society of Child Science と表示する。

##### (事務所)

第2条 当法人は、主たる事務所を東京都新宿区に置く。

2 当法人は、理事会の決議によって、従たる事務所を必要な場所に設置することができる。

#### 第2章 目的及び事業

##### (目的)

第3条 当法人は子ども学（チャイルド・サイエンス）の探求を目的とする。子どもに関する学理およびその応用についての研究発表や啓蒙活動により、学際的な「子ども学」の進歩普及をはかり、その成果を諸問題の解決や提言に活かし、子どもたちの健やかな成長環境づくりを支援する。

##### (事業)

第4条 当法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- 1 会員相互のネットワーキング
- 2 学術集会および総会の開催
- 3 研究会の開催
- 4 研究の奨励および研究実績の表彰
- 5 刊行物の発行
- 6 その他当法人の目的を達成するために必要な事業

【代表理事】安藤寿康

【理事】太田美代、大橋節子、北野幸子、木下 真、小林美由紀、佐藤朝美、沢井佳子、島田将喜、菅原ますみ、瀬尾知子、高塩純一、田部絢子、所真里子、塘 利枝子、中井昭夫、林 美里、眞榮城和美、劉 愛萍

【監事】宮下孝広、森脇浩一

## 「榊原子ども学奨励賞」を創設しました。

榊原洋一理事長の急逝はあまりにも大きな喪失でした。故榊原先生は皆様も知るように、数多くの業績と思い出をこの学会に残してくださいましたが、もう一つ、大きな遺産を残して、いえ、正確に言えば、「作って」旅立たれました。それが、「榊原子ども学奨励賞」です。

佐藤子ども財団とのつながりをつけてくださり、子ども学にふさわしい研究を進める若い人たちの自由な活動を支援したいという榊原先生のご遺志が反映された賞が本年度から立ち上がりました。すでに多数の応募があり、いま鋭意審査中です。結果は本年度の大会で発表します。ご期待ください。

\*榊原子ども学奨励賞の応募は毎夏1回です。詳細は学会ホームページをご覧ください。





## 11月8日・9日。秋田市で開催される 第21回「子ども学会議(学術集会)」で お待ちしております！

第21回日本子ども学会議(学術集会)の開催が間近となりました。

今回のテーマは「学校・地域社会における子どもの体験～風土に根付いた教育～」です。

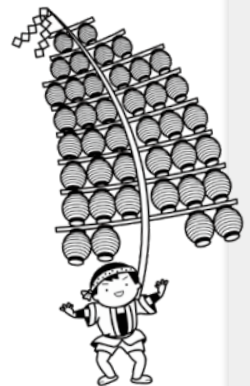
秋田県では、学校教育のみならず、家庭、地域が連携して子どもの学びを支える教育的風土があります。これは1970年代に当時の知事・小畑裕次郎氏が先進的に生涯教育に取り組み始め、以来、皆で子どもを支え、老いも若きも、互いに啓発しあう風土、協力し合う県民性を築こうと取り組んできたことが結実したものです。

大会では、1日目は、小松守・秋田市大森山動物園名誉園長による基調講演「人と動物 動物園といのちの教育」、針生悦子・東京大学大学院研究科教授による教育講演「誰が子どものことばを育てるのか」で大いなる刺激をいただきます。また、「学校・地域社会での子どもの体験～秋田竿燈まつりの継承から～」、「生きたことばの獲得とは」という2つのシンポジウムでは、子どもの体験について深く議論します。

大会2日目は、学会員によるラウンドテーブルの他に、主催校企画のラウンドテーブル「地域で子どもを育てること」で、子どもの学びを支える教育風土について議論します。そして市民公開講座「ヒトは教育によって生きる動物である～遺伝と進化の視点から～」で本会議を締めくくります。

さらに、1日目の昼休みには秋田大学竿燈会の協力を得て、大体育館にて竿燈の実演を。懇親会では「なまはげ太鼓」の演奏をご覧ください。秋田の伝統文化にも触れていただけたらと思っています。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

第21回子ども学会議大会長 瀬尾知子



## 第22回「子ども学会議」は沖縄で開催します。

会場は、海が見える国際バカロレア一貫校のインターナショナルスクールです。

沖縄らしさ満載の大会にしたいと思います。

詳細は学会ホームページ及び来春発行の学会誌でお知らせします。楽しみにお待ちください！

**テーマ** オキナワから考える“子どもの課題解決”  
(仮) ～少子化・自己肯定感・平和構築・国際人財～

【開催日】2026年9月5日(土)・6日(日)

\*9月4日(金)にエクスカージョン(有料・事前申込制)、公開保育を予定。

【会 場】オキナワ インターナショナルスクール(沖縄県南城市)

【大会長】服部智恵子(一般社団法人OGU未来者代表理事)

知念正人(オキナワ インターナショナルスクール理事長)

第22回子ども学会議大会長 服部智恵子





## 第4回 小林 登「子ども学」賞の 受賞候補者をご推薦ください。

### <賞の趣旨>

本賞は、自然科学や人文科学を包括し、子どもにかかわる学際的・環学的な学問領域において、子ども研究を深め、創発する業績、並びに、子どもの生活環境を豊かにする成育デザインの開発や、子どもの問題の解決に寄与する実践などに すぐれた業績を挙げた人々(個人あるいは団体)を顕彰するものです。そのことにより、人間科学に関する多領域の関係者で それらの成果を共有し、小林登先生が提唱された「子ども学」への社会的関心を高め、子どもの幸せに資する知識の深化や、社会システムの構築へと つなげてゆくことを目的とします。

### ●賞の内容

記念盾、賞金5万円

### ●授賞対象

- 1.公表された業績(論文、著作、実践報告等)
- 2.団体・個人による実践活動

### ●推薦・審査方法

日本子ども学会の会員に対して、受賞候補者・団体の推薦を募ります。推薦者は、候補者・団体の情報および推薦理由を応募用紙に記入し、運営委員会に提出します。取りまとめられた各候補者・団体は、審査委員会が慎重かつ厳正に審査し、理事会が受賞者を決定します。

### ●スケジュール

2025年11月1日/候補者の推薦受付開始 ▶ 2026年5月5日/候補者の推薦受付締切  
2026年5～7月/審査・選考 ▶ 8月/受賞者の決定 ▶ 9月/授賞式(於:第22回子ども学会議)

### ●問い合わせ先 <https://kodomogakkai.jp>

一般社団法人 日本子ども学会 小林 登「子ども学」賞係

詳細は日本子ども学会のホームページをご覧ください(推薦を希望される会員の方は、推薦書をダウンロードください)。なお、お問い合わせにはメールでご返答をいたします。

報告!

## 第2回小林登「子ども学」賞受賞者 「ぶるすあるは」の絵画展が行われました。

「NPO法人 ぶるすあるは」は、絵本の制作や情報サイトを通じて、精神障害や心の不調を抱えた親とその子どもたちを支援する活動を行っています。さいたま市高次脳機能障害者支援センターとの共催で、今年で5回目となる絵画展は「いろんなきもちだいじょうぶ」と題して、大宮図書館で8月21日～31日に開催しました。

絵本とはまた異なる細尾ちあきの絵画・立体作品をご覧いただいたほか、子ども支援やメンタルヘルス関連の情報を持ち帰ってもらえる工夫も。また、週末には工作室を設け、多くの子どもたちが参加してくれました。

NPO法人ぶるすあるは(設立メンバー) 北野陽子、細尾ちあき

◎詳細は、子ども情報ステーションbyぶるすあるは  
<https://kidsinfost.net>



## 『チャイルド・サイエンス』投稿論文部門 原稿募集

## オンライン投稿・査読システムをご利用ください

投稿はオンライン投稿・査読システム「ScholarOne Manuscripts」の日本子ども学会用サイトから行ってください。以下の手順をご参照ください。

## ① ユーザーアカウントの作成

まず、ScholarOne Manuscripts でユーザーアカウントを作成してください。アカウント作成後、システムを通じてオンラインで投稿が可能です。

## ② オンライン投稿

日本子ども学会用 ScholarOne Manuscripts

<https://mc.manuscriptcentral.com/cs> から投稿してください。

## ③ FAQ でのサポート

使い方に関するご不明点は、FAQ セクションをご覧ください。

<https://support.clarivate.com/ScientificandAcademicResearch/s/article/000010499?language=ja>



## 投稿資格・著作権・倫理的配慮

- 会員、非会員を問わず投稿できます。ただし、非会員は投稿料 5000 円を求めます。
- 同時に複数の投稿はできません。また投稿した研究論文あるいは研究ノートの査読が完了するまで 次の投稿はできません。
- 本誌に掲載された論文の著作権は日本子ども学会に帰属しますので、掲載論文を無断で複製および転載することを禁じます。所属機関リポジトリ等への掲載を希望される場合は、編集委員会にご相談ください。
- 投稿者は、研究を進めるにあたって、倫理的問題に十分配慮することが求められます。学会ホームページ内の「子ども学会投稿規定における倫理について」をご確認ください。

## 投稿種別

投稿者は投稿時に論文の種別（下記参照）を選択し明示してください。なお、査読の過程で、論文内容に即して種別の変更をお勧めすることがあります。

## ● 研究論文

いずれかの研究領域の理論と方法を背景としつつ、子どもに関する学際的な問題について研究した成果をまとめたもの。

## ● 研究ノート

子どもをめぐる様々な事実や状況を検討して研究の課題を提示したり、子ども学として確立していくべき研究の方向性を示したりする萌芽的な研究や展望、提言など。

## 査読体制

- 論文の投稿は随時受け付けます。
- 投稿論文の採否は、編集委員会の議を経て依頼された査読者2名と編集委員（長）の合計3名による審査によって決定します。査読者のうち1名は原則として投稿された論文の研究領域（または最も近いと判断される領域）の研究者とし、もう1名は研究領域にこだわらずに選ばれます。
- 査読は研究者の皆さまの善意で成り立っています。投稿論文の内容によっては査読の選定に時間がかかることもあります。投稿から査読結果のご連絡までの期間は投稿論文ごとに異なりますが、平均3～5か月要します。余裕をもって投稿してください。
- 採択・不採択にかかわらず、コメントは再び投稿者に返却されますので、今後の研究に生かしてください。また不採択の場合でも、修正の上、次年度以降の号で再投稿することができます。以上の過程は投稿者・査読者ともに匿名で行います。なお、査読者については『チャイルド・サイエンス』に氏名の一覧を掲載します。また、採択された論文はその時点で編集集中の直近の号に収録します。

## 執筆要項

- 「研究論文」は 10000 字以内かつ刷り上がり5ページ以内、「研究ノート」は 8000 字以内かつ刷り上がり4ページ以内とします。図表等もこの範囲に収めてください。
- 本文及び和文要約の句読点は「。」「、」を使用してください。参考文献の表記は「」が使用できます。
- 図表はモノクロにして PDF にしてください。写真は JPEG 形式にしてください。

詳細は、日本子ども学会ホームページへ <https://kodomogakkai.jp/03/99.html>

## 事務局だより

これまでお伝えしてきましたとおり、9月1日をもって、日本子ども学会はこれまでの任意団体から法人格をもつ一般社団法人となりました。学術集会の開催や学会誌の発行など事業内容はこれまでと変わりありませんが、組織は一般社団法人を規定する法律に則った形に変わります。

法人化によって社会的責任は重くなり、会の運営にこれまで以上に厳格さや透明性が求められるようになります

が、それだけ社会的な信頼度も上がり、公的な活動の広がりが期待できます。法人化とともに、社会的な信頼の基礎となるのは、学会誌への論文投稿、学術会議でのポスター発表など、会員の皆様の地道な研究のアウトプットにあります。これまで以上に、積極的な発表の機会として日本子ども学会を活用いただきたいと思います。

また混迷の時代にあって、学会のキャッチフレーズである「子どもは未来である」という言葉を改めて大切にしていくなさだと感じます。学会の創設者の小林登先生は、「子ども学（チャイルド・

サイエンス）」を単に子どもの養育や教育に関する研究にとどまらず、子ども研究を通じて人間そのものを明らかにしていく射程の広い学問として想定されていました。

小林登「子ども学」賞は第3回目を迎え、「榊原子ども学奨励賞」という顕彰制度もスタートしました。今後も子ども学の理念を尊重しながら、学会活動へのご理解およびご協力を引き続きお願い申し上げます。

（木下 真、所 真里子）



## チャイルド・サイエンス Vol.30

発行日：2025年9月30日

発行：一般社団法人 日本子ども学会  
<https://kodomogakkai.jp/>

編集：日本子ども学会 編集委員会  
 （佐藤朝美、瀬尾知子、朝倉民枝、安藤寿廉、石渡正志、井上知香、梅永雄二、太田美代、大塚紫乃、大橋節子、小川淳子、北野幸子、木下 真、児玉理紗、酒井 厚、榊原洋一、齋藤 彩、齋藤 有、菅原ますみ、鈴木玲子、戸次佳子、眞榮城和美、宮下孝広、望月一枝、山名裕子、渡辺富夫）

編集協力：木下編集事務所、株式会社インタレスト

デザイン：シモサコグラフィック

印刷・製本：株式会社総北海

ISBN978-4-909336-16-3